
「海の生き物を守る会」メールマガジン No.33

2009. 2.16 (月)

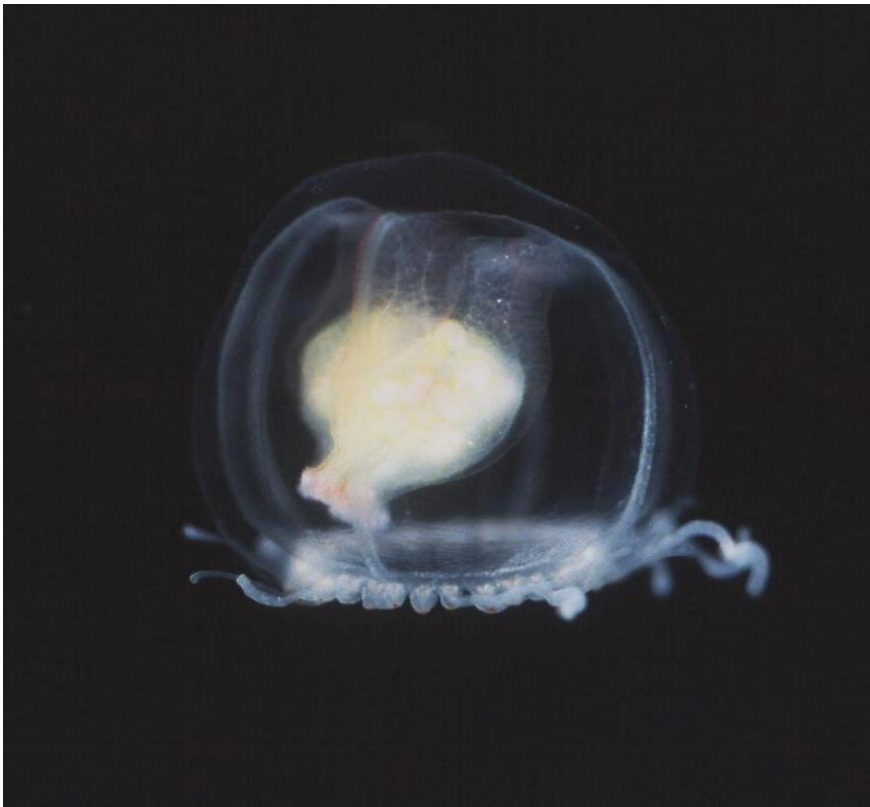


Association for Protection of Marine Communities (AMCo)

Homepage : <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

「今日の海の生き物」 ベニクラゲ *Turritopsis* sp.

腔腸動物ヒドロ虫綱に属するクラゲの一種。直径 4-5mm 程度の小さな体をもつ。北海道東部太平洋岸から南は西表島までどここの海にも生息することが知られるが、北の海では体やや大きい。クラゲ類は一般に発生の初期に付着性のポリプ生活を送り、その後クラゲ生活になる生活史をもつ。ところが、ベニクラゲは環境の悪化や餌不足などによってクラゲ体から再びポリプ体へ変化することが知られている。つまり若返りができるため、不老不死のクラゲとして著名である。



(和歌山県田辺湾のベニクラゲの雌
久保田信氏撮影)

目次 「今月の海の生き物」ベニクラゲ

1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース
2. 当会の現在の活動と予定
3. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報
4. 海の生き物とその環境に関する出版物の紹介
5. 事務局便り
6. 編集後記
7. 「うみひろも」と「海の生き物を守る会」について

1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース

【全国】

●海洋ネットが海洋保護区 PT を立ち上げ

「海の生き物を守る会」も参加している海洋環境政策ネット（略称：海洋ネット）が、「海洋保護区」設定に向けた政策づくりを進めるため、「海洋保護区PT（仮）」を設置し、活動することとなりました。その第一回会合が2月12日開催された。テーマは、「漁業権とその保障（制度）」と題して、前水産庁沿岸沖合課課長補佐の黒萩真悟さんから話を聞き、議論した。次回は3月3日、海洋保護・保全法制度についての議論が予定されている。

●鉄鋼スラグによる藻場再生プロジェクトが流行

本号の10ページにもシンポジウムの案内が載せられているが、最近鉄鋼スラグと落ち葉などの有機物を混ぜたものを海中に設置して、磯焼けから海藻藻場を再生させようという事業があちこちで行われるようになった。森が海の生産を育むのは、森から川を通して運ばれる鉄が大きい貢献をするという研究結果を応用した事業だ。北海道の日本海側で成功したという報告もある。しかし、実はこれもまだ試験段階であり、本当に成功したと言えるかどうかは学問的に十分な検証ができていない。しかし、産業廃棄物だった鉄鋼スラグをリサイクル製品として干潟造成に使うなど、各地で鉄鋼スラグを利用する動きが活発になっており、その一環としてこの藻場再生プロジェクトを見る必要がある。

問題は鉄鋼スラグの安全性がどれほど保証されているのかという点と、その効果が本当にあるかという点にある。安全性については、いまだに問題が多い。鉄鋼スラグには多くの毒性のある重金属が含まれることがしばしば報告されている。また、鉄鋼スラグの堆積場の周辺で二酸化クロムなどの有毒な物質が検出されていることもあった。

海藻藻場の再生に、鉄鋼スラグが本当にどれだけ有効かについては、いろんな説が入り乱れている。鉄イオンが本当に欠乏している海域では、有効であるが、日本の沿岸の多く

は鉄イオンの欠乏は見られないので、磯焼けの多くは鉄イオンの添加では解決しないという説がもっとも有力である。

【北海道】

●ラッコが釧路川に出現

2月11日に、釧路川河口の幣舞橋付近にラッコが泳いでいるのを住民が発見した。ラッコは橋の近くでのんびりお腹を上に向けて居眠りしたり、二枚貝を捕って食べるなどして見物人を楽しませていた。大きさは約1m。数年前から根室半島や厚岸湾、襟裳岬などにラッコが現れていたが、都市の中の釧路川河口に出現したのは初めてのこと。このラッコは数日釧路川に滞在して市民の目を楽しませたほか、多くの観光客も集まってきた。

【東海】

●名古屋の黒川に30万匹のボラ遡上

中部地方の太平洋岸にボラの大群が現れ、人びとの話題になっている。名古屋市北区を流れる黒川にボラが大量に遡上。川面を黒くするほどの量で、その数はおよそ30万匹という。黒川には最近数年間、この季節になると多くのボラが遡上するようになった。昨年にも異常に増えて大量に遡上したが、ほとんどが死に、50万匹の大量死として話題になった。

今年は隣の四日市市の運河でもボラの大群が迷い込み、水面を真っ黒にするほどになっている。この原因はよくわかっていないが、昔からボラはこの時期に河口を遡上する性質があり、とくに変わった行動をしているわけではないとの見方もある。

【近畿】

●高砂臨海部PCB汚泥、現地封じ込め容認へ

兵庫県高砂市の臨海部に放置されているポリ塩化ビフェニール（PCB）が含まれている汚泥の処理などについて考える高砂市議会の特別委員会が開かれ、兵庫県の「高砂西港再整備推進協議会」が示した、土留め壁を使って現地で汚泥を封じ込めるという方針を「容認」するという意見をまとめた。

特別委では、「容認」とする意見が多数を占めた。工事費用の企業負担、汚泥を含む盛り立て地への出入り制限、分解処理技術確立後の盛り立て地の全量撤去を条件として付けることを決定した。盛り立て地の全量撤去が最終的な解決策である点も書かれているが、盛り立て地を公園など親水空間とする方針については、企業の私有地である点を考慮して賛否を書かないこととした。

【中四国】

●シジミ漁に島根県知事の許可制導入

島根県は宍道湖周辺でのシジミ漁を知事の許可制にする規則改正を行い、密漁者

への罰則を強化することにした。これまでは漁業法の漁業権侵害で 20 万円以下の罰金で取り締まってきたが、この改正で罰則を最高で懲役三年以下とすることを盛り込んだ。宍道湖周辺では 2007 年に一晩で 300kg 以上のシジミを密漁したとして 8 人が逮捕されている。

●祝島支店が漁業補償金受け取りを再び拒否

山口県上関町に建設計画の原子力発電所に伴う漁業補償を山口県漁協祝島支店（旧祝島漁協）は、組合員 69 人全員が出席して行った投票で、補償金の受け取りを拒否する票が 2 票上回ったため、再び受け取りを拒否することになった。補償金は、旧祝島漁協を除く旧 8 漁協の共同漁業権管理委員会が 2000 年に 125 億円余を中国電力から受け取ったが、旧祝島漁協だけは、分配金を受け取ることを拒否し、原発建設反対を通してしている。拒否した分配金は法務局に供託されていたが、来年 5 月までに受け取らない場合は国庫に収納されることになる。それでも祝島漁協は受け取りを拒否し、あくまで海を守る立場を貫くことになった。

●上関原発建設予定地でウミスズメを多数観察

山口県上関町に原発建設を予定している長島周辺の海域に、日本固有のカンムリウミスズメが生息し、繁殖の可能性もあるとされている。上関原発建設による海面埋め立てに反対している「長島の自然を守る会」（高島美登里代表）は、カンムリウミスズメの生息状況を調べるために、1 月下旬から 2 月はじめに掛けて建設予定地とその周辺海域で 3 日間の調査を行った。

調査の結果、カンムリウミスズメの姿も確認したが、これまで知られていなかった北海道などの北方で繁殖するウミスズメを多数観察することができたと発表した。ウミスズメは、環境省の絶滅危惧 IA 類に指定されているやはり希少な種である。高島代表らによると、延べ数十羽のウミスズメを観察したという。ウミスズメは北方で繁殖するが、それ以外の時期には南方の海に餌を探しにやって来るといふ。埋め立て予定地や排水口予定地、吸水口付近の 3 ヶ所でウミスズメを観察した。

中国電力が実施した環境アセスメントでは、カンムリウミスズメもウミスズメもまったく考慮されておらず、山口県が十分な調査も行わずに埋め立て許可を与えたことは、時期尚早であるとして、「長島の自然を守る会」では、県に埋め立て許可の取り消しを求め、中国電力にはウミスズメ類などの不十分な調査をやり直すこと、それが終わるまで予定地の変更をしないこと等を訴えていく予定。

【九州】

●枕崎の海を守る協議会が発足

鹿児島県枕崎市沿岸では、ヘドロが発生し漁業にも影響が出始めているため、漁業団体、保健所や枕崎市などの行政機関を含む団体が「海の環境汚染防止と沿岸漁業を守る対策協議会」を結成した。農業や水産加工業、家庭排水などが原因と見られ、キビナゴ、イカ、トサカノリなどの沿岸漁業に悪影響が出ており、この8年間で水揚げは半減したという。

【沖縄】

●沖縄で参加したい環境活動「サンゴ植え付け」が最多

観光による二酸化炭素排出を旅行中の行動によって相殺する仕組み（沖縄型カーボンオフセット）を検討する有識者委員会が、沖縄を訪れた旅行者にアンケートを実施した。その結果、沖縄旅行でもっとも参加したい環境活動は、「サンゴの植え付け」と答えた人が456人のうち33%にのぼった。第2位がハイブリッドカーや自転車の利用（20%）、第3位がマングローブの植林・休耕地緑化がそれぞれ12.1%となった。

また、環境活動に支払っても良いと思う金額は、1000円までが最も多く31%、500円までとしたのは24%であったという。オフセット旅行についてはほとんどが知らないとこたえた。この結果から、検討委員会は修学旅行やダイビング旅行などで「サンゴの植え付け」をカーボンオフセットとして取り込む旅行プランを作るように観光業界に提言する予定だという。「サンゴの植え付け」がダイバーや若い人中心に環境活動として流行している事を示しているようだが、「サンゴの植え付け」が本当にサンゴ礁の再生に結びつくという保証はない。むしろ本質的な問題を隠す役割をこれらの人びとが果たすことになる可能性が高い。「サンゴの植え付け」ではなく、サンゴ礁が成立する環境を守り、保全していくことこそ必要なことであろう。

2. 当会の現在の活動と予定

●海洋シンポジウムを開催します

「海の生き物を守る会」では、3月28日（土）に、東京弘済会館でシンポジウム「海洋環境の保全」を下記の通り、海洋環境政策ネットワークとの共催で開催します。

海洋シンポ「海洋環境の保全－海洋生物とその環境保護・保全の政策化をめざして－」

とき：3月28日（土）13:30~16:30

ところ：弘済会館・きく

参加費：1000円（海の生き物を守る会会員は無料）

主催：「海の生き物を守る会」「海洋環境政策ネットワーク」

後援：日立環境財団・セブーンイレブンみどりの基金

連絡・申込先：

海洋ネット事務局 TEL:03-5226-8843 FAX:03-5226-8845 e-mail: kobayashi@c-poli.org

内 容：

第一部 基調報告

1. 日本の水産行政の問題点と方向性

勝川 俊雄（三重大学大学院生物資源学研究科 准教授）

第二部 問題提起・話題提供として

1. 日本における海洋保護区：環境省

2. 海洋保護区の設置と制度的課題

清野 聡子（東京大学大学院総合文化研究科 助教）

3. 持続的利用のための海洋保護区はどうあるべきか

向井 宏（海の生き物を守る会/

京都大学フィールド科学教育研究センター 特任教授）

4. 海洋保護・保全法（素案）の提案：海洋ネット

第三部 ディスカッション

パネリスト：基調報告者・話題提供者

コーディネーター：伊沢 あらた（アマタ株式会社/水産学博士）

□趣 旨

海洋は気候の調整をはじめとして、移動、食糧確保、エネルギー資源、レジャーなど人間の生活にさまざまな形で寄与している。しかし、人間の活動によって海洋環境は悪化し、乱獲による資源の減少、海洋汚染など海洋生物の生存は深刻な危機に直面しており、早急な対処が必要である。特に、水産資源が重要な食料の柱である日本にとって、海洋環境の悪化、資源の減少による影響は将来にわたって大きな問題である。

その課題を解決するため、国際的には、①国連環境開発会議（リオサミット）が採択したアジェンダ 21 は、“海洋保護区を設けること”に言及し、ほぼ同時期に②生物多様性条約が採択され“「保護地域」の設定を柱とする生物多様性の保全制度の整備”が示され、③その後発効した国連海洋法条約は“海洋環境の保護及び保全”について明示し、④持続可能な開発に関する世界サミット（WSSD）で公表された「実施計画」の中で、“海洋保護区の設定”が明示され、⑤第5回世界国立公園会議（世界保護区会議）で“生態的に意義のある海洋保護区を公海上に少なくとも5つ指定すべきである”との勧告が示された。など、「海洋保護（区）」に関して、さまざまな場面で論じられ、また実行されつつある。

国内では、昨年「海洋基本法」が制定され、それをきっかけにして、海洋の保護、保全についても本格的な取組みが求められ、「生物多様性基本法」制定により“生物の多様性の保全及び持続可能な利用に関する施策を総合的かつ計画的に推進”することが求められている。「海洋保護（区）」に関連する現行法としては、自然公園法に基づく「自然公園」、「海中公園地区」、自然環境保全法に基づく「海中特別区域」、水産資源保護法

に基づく「保護水面」などがある。しかし、その目的が“景観の保護”に重点が置かれていることや、指定されてもその保護や管理が徹底されないなど、現行制度での課題は多い。

上記のような経緯や課題をふまえ、“海洋環境を保全し、海洋生物を保護するための政策の具体化”を市民レベルから模索するために、本シンポジウムを開催したいと思いますので、多数ご参加下さい。

●今年の総会を開催

前述の海洋シンポジウム終了後、同じ場所で今年度「海の生き物を守る会」総会を開きます。会員および入会希望の方はお集まり下さい。

● 砂浜海岸生物調査の結果を集計します

海の生き物を守る会・OWS

海の生き物を守る会では、セブン-イレブンみどりの基金の後援で、NPO法人OWSと共同で今年から全国の砂浜海岸生物調査を実施しています。日本の砂浜を生き物のために取り戻そうと計画された調査です。調査は誰にでもできる方法で計画されていますので、少しでも多くの方が、多くの海岸でこの調査に参加していただけるようお願いいたします。

ご協力いただける方には、方法と調査用紙をメールでお送りします。当会のホームページ <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html> にも掲載しています。NPO法人「海守」でもこの砂浜海岸生物調査に参加を呼びかけています。

なお、今年度の調査結果を2月末でいったん締め切り、報告書としてまとめる予定です。調査を行った方は、なるべく早く調査結果をお送り下さい。よろしく申し上げます。

3. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報

【関東】

●杉浦千里展 ～生き物のきらめき 知られざる博物画の世界～

http://kanack-hall.jp/cgis/exhibit_detail.cgi?PerformInfoNo=494&PerformPlaceCategoryNo=15

2009年3月17日（火）～3月23日（月）10:00～17:00（最終日～15:00）

かなっくホール 横浜市神奈川区民文化センター ギャラリーA・B

神奈川県横浜市神奈川区東神奈川 1-10-1 電話 045-440-1211

公演情報 <http://kanack-hall.jp/info/vol65.html>

杉浦千里展が、催される。

夭折された甲殻類の細密画家、杉浦千里さんの絵を、

久方ぶりに観ることができるのだ。

ちらしには、

「ルーペ持参でお楽しみください」

とあるのだが、以前、原画を観て、

実際、拡大鏡を覗きながら描かれたのではないだろうか、

という精密さであったことを思い出す。

千葉県立博物館での「現代の動物画、植物画展」も、

確か観に出掛けた筈なのだが、よく憶えていない。

初めてこの方の名前を意識したのは、

神保町の文房堂に於いて催された

展覧会「野生生物画展」だった。

(今、手元にあるパンフレットを観ている。懐かしい・・・)

しかし、わたしがその後、この原画にお目に掛かることは、なかった。

風の便りに、杉浦さんは亡くなられたらしい、

ということを知った。

多分、今後も、原画を観る機会はあまり無いと思う。

期間は短い、万障お繰り合わせの上、お出掛け頂きたい。(橋口陽子)

●第56回 油流出事故時の対応に関する学習会のご案内

今回の講演者は、IFAW/IBRRC に所属し、油流出事故時の緊急援助隊で活躍されている、バーバラ・キャラハンです。2008年にIFAW/IBRRC が関わった主な3つの油流出事故時の野生生物対応についてお話していただきます。

- ・ CoscoBusan オイルスピルにおける油汚染鳥のケア (カルフォルニア)
- ・ 原因不明の油がもたらしたペンギン・カイツブリの被害 (パタゴニア)
- ・ 油流出時の野生生物対応の査定と評価の今後の可能性について (黒海での対応)

☆IFAW: 国際動物福祉基金 の緊急援助活動のページをご覧ください。

http://www.ifaw.org/ifaw_japan/join_campaigns/emergency_relief/index.php

☆IBRRC: International Bird Rescue Research Center 国際鳥類救護研究センター

日時 2月26日(木) 午後6時30分-8時

場所: 環境パートナーシップオフィス エポ会議室

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-67 コスモス青山 B2F TEL: 03-3406-5180

アクセス: 表参道駅のB2出口を出て、そのまま青山通りを直進してください。右側に

国連大学が見えてきます。その右ウィングが GEIC、青山ブックセンターのある建物の B2 階に EPO があります。(徒歩約 5 分)

参加費：500 円

申し込み：名前・所属を記名の上、jedic@nifty.com 担当 甲野までお申し込みください。
定員 70 名に達した場合のみ、こちらからご連絡いたします。

主催：日本環境災害情報センター (JEDIC)

●高木基金 第 8 回公開プレゼンテーション プログラム

会場：渋谷区立恵比寿区民会館 大集会室

3 月 1 日 10:00 開会・趣旨説明

10:15 ～ 午前の部

遺伝子組み換え食品を考える中部の会 / 河田 昌東さん

『遺伝子組み換えナタネの拡散を防ぐための名古屋、四日市港周辺の調査研究と活動』
化学物質問題市民研究会 / 安間 武さん

『ナノテクノロジーに関連する問題点と安全管理に関する調査研究』

NPO ずっと∞サステイナブル / 鶴井 純さん

『SRI 農法導入の事例に学ぶ CDR 農業への貢献策の検討』

秋保 さやかさん

『現代カンボジアにおける農村開発と稲作の変容—「食糧の安全保障」に着目して』

13:10 ～ 午後の部・前半

木村 啓二さん 『カリフォルニア州の再生可能エネルギー政策の研究』

ピープルズ・プラン研究所 / 山口 響さん

『在沖米海兵隊のグアム移転がグアムと沖縄に与える影響の研究』

中原 聖乃さん 『「生活者」による核実験補償金に依存しない社会構築の可能性』

上杉 誠さん 『有明海再生を目指した諫早湾の保全生態学的研究』

15:20 ～ 午後の部・後半

泡瀬干潟を守る連絡会 / 前川 盛治さん

『沖縄島泡瀬干潟の生態系保全と持続可能な利用のための調査研究』

グリーン・アクション / アイリーン・美緒子・スミスさん

『原子力は温暖化対策にならない。むしろ新規原子力は温暖化を悪化させる。』

国土問題研究会 佐賀県城原川ダム問題調査団 / 上野 鉄男さん

『佐賀県城原川ダムの問題と治水対策のあり方』

長島の自然を守る会 / 高島 美登里さん

『上関原発予定地長島の自然環境と生態系調査』

17:30 頃 閉会

●海の緑化研究会シンポジウム

「海の森」再生に向けた新たなアプローチ

～鉄鋼スラグと未利用バイオマスによる磯焼け回復技術～

1. 概要

日本や世界各地の沿岸海域において、海藻群落が衰退・消失する磯焼けと呼ばれる現象が生じており、特に水産業においては、漁獲高の減少など深刻な問題となっている。磯焼けの原因としては、海水温の上昇、ウニや植食性魚による食害などが挙げられているが、特に最近になって海水中の溶存鉄不足が注目されつつある。海の緑化研究会ではこの溶存鉄不足に着目し、産業副産物である鉄鋼スラグ（製鋼スラグ）と未利用バイオマス（堆肥（腐植物質））を用いた磯焼け回復技術（=藻場再生技術）の研究開発に産学連携で取り組んできた。本研究会は、東京大学と新日本製鐵(株)・(株)エコ・グリーン・西松建設(株)が中心となって2003年に発足し、現在5年が経過するに至っている。これまで、製鋼スラグから溶出する鉄分と堆肥中の腐植物質との錯体形成による溶存鉄濃度の増加と藻場再生への効果に関して研究開発を行ってきた。そして北海道増毛町での実証試験において継続的な藻場再生が確認されたのを契機として、本技術による実証試験は、現在北海道や九州をはじめ、全国20箇所へと広がっている。海藻群落の再生や藻場造成については水産資源の回復にとどまらず、海藻による二酸化炭素の吸収や海藻を利用したバイオエタノール生成など、環境エネルギー問題解決への期待も少なくない。本シンポジウムでは、5年間にわたって研究開発が進められた藻場再生技術に関する成果を紹介するとともに、磯焼け対策や環境中における鉄の役割について興味を抱いている研究者・漁業関係者との新たなネットワークを構築していくことを目的とする。

2. 開催日時・場所

- ・ 日時：平成21年3月9日（月）13:30～17:45
- ・ 場所：東京大学教養学部18号館ホール
- ・ 主催：海の緑化研究会
- ・ 共催：東京大学NEDO 新環境エネルギー科学創成特別部門（NEDO 特別部門）
- ・ 協賛：東京大学海洋アライアンス、ダムフルボ酸鉄研究会

3. プログラム

13:30 開会挨拶 東京大学NEDO特別部門 瀬川 浩司

13:40 主催者挨拶・本技術の概要について 東京大学 山本 光夫(海の緑化研究会会長)

第1部：磯焼け回復技術の基礎～鉄に関する基礎的知見～

13:55 鉄と錯形成する腐植物質のキャラクタリゼーション 北海道大学 福嶋 正巳

鉄分供給ユニットにおけるバクテリアの役割 産業技術総合研究所 駒井 武

藻類生育への鉄の効果と必要性 北海道大学 本村 泰三

15:25～15:40 休憩

第2部：磯焼け回復技術の展開～本技術の有用性と展望～

15:40 藻場再生実証試験の全国展開1 エコ・グリーン 堀家 茂一
藻場再生実証試験の全国展開2 新日本製鉄 中川 雅夫
実証試験現場の藻場の現状と期待される変化 長崎大学 桑野 和可
溶存鉄濃度と藻場再生の関係性と本技術の今後の展望 東京大学 山本 光夫
17:30 閉会挨拶 東京大学総長 小宮山 宏
18:30～ 懇親会（駒場ファカルティハウス・セミナー室）

4. 参加申込方法

参加希望の方は、下記項目を明記の上、平成21年2月27日（金）までに、E-mailにて
シンポジウム参加費：無料

懇親会参加費：4,000円

申込先：東京大学教養学部附属教養教育開発機構NEDO 特別部門 山本光夫
〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1

TEL&FAX: 03-5465-8211, E-mail : cymitsuo@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp

申込記載事項：

- 1) 氏名 2) 所属 3) 役職（学生の場合は学年） 4) 連絡先（電話、E-mail）
- 5) 懇親会参加の有無

その他、何かご質問・ご不明な点等ございましたら、東京大学 山本宛、または海の緑化研究会事務局までお問い合わせください。[海の緑化研究会事務局（笠原・菊地）]

〒224-0025 神奈川県横浜市都筑区早渕2-2-2 いであ（株） 国土環境研究所 生態解析グループ
TEL : 045-593-7603 FAX : 045-593-7623

●長谷川博 鳥島調査100回記念特別企画

第48回OWS海のトークセッション「アホウドリ：未来への飛び立ち」

スピーカー：長谷川博（OWS会長・東邦大学理学部教授）

今年度、OWSの長谷川博会長が、伊豆諸島鳥島での100回目となるフィールド調査を終了されました。延べ5年と数カ月という途方もない時間を鳥島での調査に費やしてきた事実は驚嘆に値します。この記念すべき100回目のアホウドリ調査を終えた長谷川博会長が、鳥島における保護の成功とさらに続く保護活動と未来へのビジョンを語る特別記念トークセッションを、d-laboとの共催で開催します。

開催日 3月20日（金・祝）14：00～16：00（13：45受付開始）

会場 d-labo（東京ミッドタウン・タワー7階） 東京都港区赤坂9-7-1

地図→<http://www.d-labo-midtown.com/concept.html#access>

参加費 無料

主催 d-labo・OWS共催

申込み お申込みはd-laboまで、ホームページまたはお電話でお申込みください。定員に

達し次第受付を終了します。 TEL : 03-5411-2363 (担当 : 高橋・加藤・小名木)

d-laboホームページ <http://www.d-labo-midtown.com/d-log.php>

【中四国】

● 湯浅一郎さん 連続講演会「瀬戸内海から発信する環境と平和」

3月 1日(日)13:30～ 豊島唐櫃公堂 (香川県土庄町豊島唐櫃)

共催 環瀬戸内海会議 豊島は私たちの問題ネットワーク

問合せ先 石井 亨 (090-8970-6897)

●新舞子と揖保川河口・冬鳥ウォッチング

3月1日(日) 9:00～ 集合場所：新舞子西浜 民宿カトレア

連絡先 播磨灘を守る会 (079-322-0224)

4. 海の生き物とその環境に関する出版物の紹介

●久保田信「宝の海から 白浜で出会った生き物たち」 pp.114 不老不死研究会 ¥2,000 (2006)

京都大学瀬戸臨海実験所の久保田准教授が、勤務先の白浜町の海の生き物 540 種類について地元の新聞「紀伊民報」に連載したものをまとめて自費出版したもの。販売は「紀伊民報」社。

●星合孝男「南極昭和基地に氷の海の生き物を見る」 pp.131 自費出版 非売品 (2009)

元極地研究所所長の星合孝男さんが、ご自身の 8 回にわたる南極観測の経験から、観測業務の個人的な記録や南極の海の生き物について書き記した書物。海氷藻 (アイスアルジー) の研究や、プランクトン、ベントスなどの話が楽しく読める。まもなく 80 歳になる前に自費出版で記録を残そうとされたもの。販売されていない。

●向井 宏「海岸の自然と生き物を未来に残すために (1)」 雑誌「理科教室」日本標準刊 2009 年 2 月号 pp.94-95 ¥800 (2009)

「海の生き物を守る会」の組織と活動を紹介したもの。後編は 5 月号に掲載予定。

5. 事務局便り :

- 講演での講師派遣を希望される方は、事務局へお問い合わせください。沿岸の生物やその環境についての問題、沿岸生態系の構造、保全、再生、地球環境問題、環境教育などに関する講演を行うことができます。

- 本会へのカンパをお寄せください。口座は埼玉りそな銀行指扇支店 3896180。
- 企画案などその他なんでも本会の活動に関することは、事務局あてにお寄せください。
- このメールマガジンは、毎月 1 日と 16 日の 2 回発行の予定ですが、都合によって遅延や中止もあります。配信を希望する方、送りたい方がありましたらアドレスをお知らせください。また、パソコンを使えない方には印刷体でもお届けします。その場合は、郵送料をご負担していただくことがあります。
- このメールマガジンは転載自由です。海の生き物に関心を持っている方に広く読んでいただくために転送をお願いします。ただし写真を別の目的で使用する場合は事前にご連絡ください。海の生き物や守る運動についての情報など、また各地で行われている海の生物の観察会、研修会、その他の行事に関する情報もお寄せください。「うみひろも」のバックナンバーは、ホームページからダウンロードできます。
- 本会は自然観察会や講演会を各地で実施しています。各地で開催を希望される方、開催をお手伝いできる方は、ご一報ください。また、各地の団体との共催も行います。ごいっしょに講演会や観察会をしたいと思われる団体からも提案をお受けします。

6. 編集後記

33 号をお届けします。鉄鋼スラグを用いた「海の緑化運動」や、「アマモの植え付け」「サンゴの移植」など、怪しい環境保護活動が盛んになってきています。あらゆる企業が「環境に優しい」を宣伝文句に使うようになりました。本当に「優しい」のは何か、本当に「環境補保全する」とはどういうことか、をしっかりと自分の目と頭で確かめることが求められています。(宏)

7. 「うみひろも」と「海の生き物を守る会」について

この「うみひろも」は「海の生き物を守る会」のメールマガジンです。配信が迷惑と思われる方は事務局までご連絡ください。「海の生き物を守る会」の趣旨および組織の概要は会のホームページ <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html> をごらんください。

海の生き物を守るためになにかしたい！というあなたに！

会員募集中です！

会員は本会の趣旨に賛同できる個人・団体とします。会費は個人 2,000 円／年、団体 20,000 円／年。匿名による参加も可能です。会員は、当会の名前を使って各地で海の生物とその環境を保護・保全する活動を行うことができます。活動は当会の発行するメールマガジンなどを通して広く通知されます。会員は本会の名前で各地の活動のための助成金申請をすることができます。入会希望の方は、事務局 hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp (向井) まで、氏名、住所、メールアドレス

スをお知らせください。

事務局員も募集中！

事務局を手伝っていただける人を探しています。パソコンでメールが使える環境にあれば近くにいなくてもお手伝いいただけます。ただし、無収入ですので海の生き物の保全・保護に関心とボランティア精神のある方。

メールマガジン『うみひろも』第33号 2009年2月16日発行

発行&編集人「海の生き物を守る会」代表 向井 宏

〒606-8244 京都市左京区北白川東平井町23-1 グリーンヒル北白川23

TEL&FAX:075-703-7205; 090-8563-1501

メールアドレス：hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp

ホームページURL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

銀行口座：埼玉りそな銀行指扇支店3896180

